

# 次世代産業システム技術委員会 IIS: Innovative Industrial System

## 名称変更事由

グローバル化時代に我が国の産業が持続的発展を維持するためには、イノベーションと高品質・高信頼サービス提供の二つが重要なキーワードである。すなわち、常に技術革新を追い求め、かつ、地域・空間・時間に囚われることなく人間・環境に優しい製品や高品質・高信頼サービスの提供が持続的発展のための基軸となるものとする。

一方、これまで、産業システム情報化技術委員会は次の分野を担当してきた。

### 【従来の担当分野】

(1) ファクトリーオートメーション, (2) プロセスオートメーション, (3) 計算機制御システム, (4) CAD/CAE, (5) CAM, (6) CAT, (7) 産業用ロボット, (8) 画像認識・処理(計測を含む), (9) 無人搬送システム, (10) 自動倉庫, (11) CIMS, (12) AI の産業応用, (13) その他産業システム情報化に関する事項

これらの多くは現在では成熟した要素技術であり、それぞれ単独では新たなイノベーションを生じさせる可能性は低いものになった。このことと、グローバル社会化においても、電気学会産業応用部門における各技術委員会の使命である各種産業の持続的発展に貢献することを改めて鑑み、本技術委員会の担当分野を見直すこととした。

すなわち、産業システムのさらなる発展に貢献するため、人間、システム、地理空間の3分野を基軸におき、次世代型産業システムに対応することを新たな使命として組み入れることとする。この活動内容にふさわしい技術委員会にするべく、従来の産業システム情報化技術委員会を改組して新技術委員会に移行する。この新技術委員会の名称は活動内容にふさわしい「次世代産業システム技術委員会」とし、担当分野は次とする。

### 【次世代産業システム技術委員会の担当分野】

(1) 人間・機械協調システム, (2) 次世代生産システムにおけるヒューマンファクター, (3) 技能の情報化と伝承, (4) 高度地理空間情報技術, (5) 地域社会振興技術, (6) 人間活動支援技術, (7) 産業応用パターン認識, (8) サービス提供型空間知能化技術, (9) 高品質ユーザビリティインタフェース, (9) その他次世代にふさわしい産業システム化に関する技術

この担当分野からわかるように、新技術委員会の活動内容の特徴は次にある。

- 電気学会の中でも際立った学際領域での活動を担う
- 先進的に新しい切り口で、理工系のみならず医療・福祉、心理、社会科学、アミューズメント、芸術、文化論など様々な分野を取り入れた異分野交流を盛んに行う
- 次世代を担う若い世代に挑戦的に参入しやすい機会を常に設ける
- 次世代にイノベーションを起こす新たな産業システムの開拓を目指す

以上のように、常に先駆的活動を試みるという意思の下、新技術委員会は電気学会産業応用部門から我が国の次世代型産業システムの在り方を提言する情報発信拠点になると共に、それに適する設計論・開発手法等を見出し、高品質・高信頼な産業の持続的発展に貢献できるような産業・技術貢献を行うことを目的として、ここに次世代産業システム技術委員会を設立する。

以上